

平成25年度〈東北大学学生生活調査〉のまとめ  
**東北大学生の生活**  
TOHOKU UNIVERSITY 

平成26年3月発行

〈編集〉 第10回東北大学学生生活調査委員会

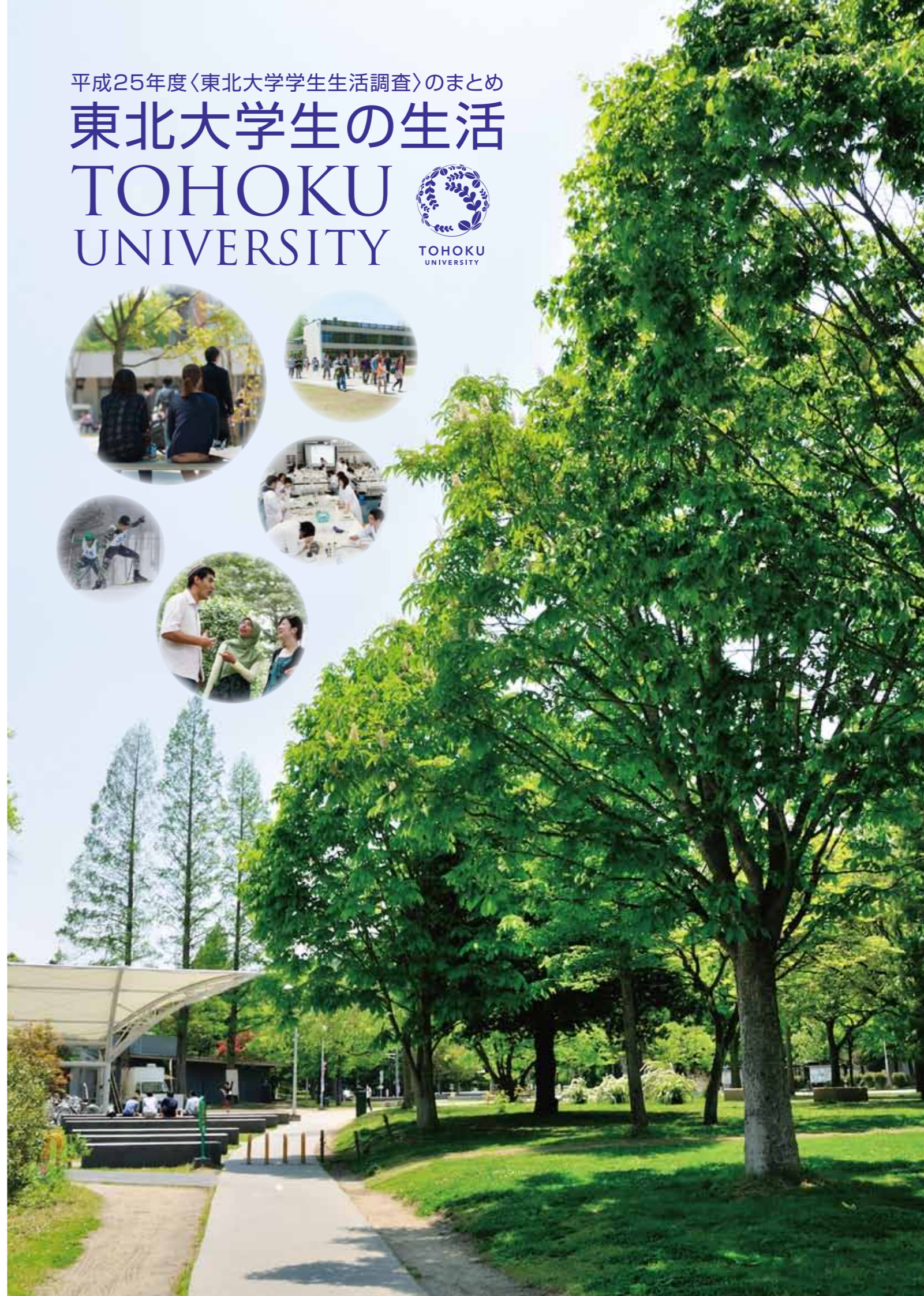
〈写真提供〉 東北大学総務部広報課  
東北大学高等教育開発推進センター  
東北大学学生相談所  
東北大学国際教育院  
東北大学グローバルラーニングセンター  
東北大学学友会スキー部

〈発行〉 東北大学高等教育開発推進センター  
〒980-8576 仙台市青葉区川内41



環境にやさしい植物油インキ  
「VEGETABLE OIL INK」で印刷しております。

平成25年度〈東北大学学生生活調査〉のまとめ  
**東北大学生の生活**  
TOHOKU UNIVERSITY 



# はじめに

東北大学 総長特別補佐・副理事  
高等教育開発推進センター長  
学生相談所長・キャリア支援センター長  
第10回学生生活調査委員会委員長

## 木島 明博

本学における学生生活調査は、学生諸君の生活の実態を把握し、その中にある問題や課題、要望を的確にとらえ、本学の学生の生活向上のために大学が行える施策を企画・立案・実施することを一つの大きな目的としています。これまでに、学生食堂の改修や学内バスの試行運行、仙台市交通局の協力の下、「市バス(+地下鉄)フリーパス」による学生の公共交通網利用の利便性向上などの施策を実施してきました。また、学生諸君がカルト集団からの勧誘を受けたり、悪質な販売業者に付け狙われたり、一人では解決できない様々な問題に対応できるように学生相談体制の充実やキャリア支援の充実にも努めてきました。さらにハラスメントのないキャンパスづくり、安心な学生生活を目指して、皆さんの要望に基づき教職員および学生対象の講演会や研修会も開催しております。

さて、平成23年の東日本大震災から約3年の歳月が経過しました。この3年間は東北大学の学生諸君にとりまして激動の3年間であったと思います。日常生活は平常に戻りつつありますが、いまだにいくつもの研究棟が建設中あるいは改修中であり、不便な学生生活を送らざるを得ない方も多くいると思います。復興にはさらに数年を要するでしょう。しかし、授業や研究はもとより、すべての学生生活に「待った」はありません。そのような状況だからこそ私も今年も「東北大学学生生活調査」を実施いたしました。復興途上にある大学における学生生活の実態を把握し、いまできることを企画していきたいものと考えています。また、このような状況下における学生諸君の生活実態は、単に生活改善だけに資するだけでなく、後世に伝えていくべきものと考えております。非常事態を経験した学生諸君の生活がどのようになり、これまで知ることのできなかった学生諸君の生活実態を記録に残すことによって、今後大きな災害があった場合に備えることができると考えています。

ここに平成25年11月に実施いたしました「第10回東北大学学生生活調査」の結果の概要を取りまとめた本誌を、学生・教職員をはじめ本学関係者の皆様にお届けいたします。本調査は学生諸君の利便性を考え、今回よりインターネットを活用する調査に進化させました。その結果、約2,300名の学生諸君のご協力をいただくことができました。ご協力いただきました皆さんに心からお礼申し上げます。本学としまして調査結果についての詳細な分析を行い、より多くの学生が快適な学生生活を送れるよう効果的施策を立案・実施するようにしたいと考えています。東北大学で学ぶすべての学生諸君が、本学でより多き学生生活を送り、世界へ飛翔していくことを期待してやみません。



## CONTENTS

A	調査に協力してくれた学生諸君	3
B	通学	4
C	学習	5
D	研究	7
E	サークル・ボランティア活動	8
F	国際交流	9
G	家庭・生活の状況	11
H	大学生活の充実度と悩み	13
I	キャンパス内外での安全	15
J	ハラスメント	16
K	進路・就職	17
	参考資料	18

### 第10回 東北大学学生生活調査委員会

- 安保 英勇(大学院教育学研究科)
- 猪股 歳之(高等教育開発推進センター)
- ◎木島 明博(総長特別補佐・高等教育開発推進センター長)
- 北川 尚美(大学院工学研究科)
- 高橋 忠志(教育・学生支援部)
- 田口 香織(グローバルラーニングセンター)
- 日出間 純(大学院生命科学研究科)
- 堀 匡(高等教育開発推進センター)
- 嶺岸 幸子(教育・学生支援部)
- 吉武 清實(高等教育開発推進センター)

五十音順(◎委員長、○副委員長)



「東北大学学生生活調査」は、東北大学に在籍する学生の勉学、日常生活上の意識および生活の実情を把握し、学生への支援を充実させていくための基礎資料を得ることを目的として実施されている。本調査は平成7年度より隔年で実施されており、今回が第10回目の調査となる。

今回の調査は、東北大学の学部と大学院に在籍し、調査が可能であるすべての学生を対象として、平成25年11月に実施した。本調査では平成25年11月1日現在の状況について、Webページからの回答を求めた。回答者数は2,280名で、有効回収率は13.2%であった。調査に協力してくれた学生諸君に感謝したい。

有効回答数	区分	学部	大学院	無回答	合計
	文学部/文学研究科	127	50	1	178
	教育学部/教育学研究科	36	20	1	57
	法学部/法学研究科/法科大学院/公共政策大学院	58	27	2	87
	経済学部/経済学研究科/会計大学院	94	38	4	136
	理学部/理学研究科	192	144	2	338
	医学部/医学系研究科	156	86	4	246
	歯学部/歯学研究科	18	24	0	42
	薬学部/薬学研究科	69	24	0	93
	工学部/工学研究科	438	272	0	710
	農学部/農学研究科	97	73	0	170
	国際文化研究科	—	18	0	18
	情報科学研究科	—	59	0	59
	生命科学研究科	—	41	0	41
	環境科学研究科	—	52	1	53
	医工学研究科	—	25	0	25
	教育情報学教育部	—	9	0	9
	無回答	1	1	16	18
	合計	1,286	963	31	2,280
	男性	916	692	13	1,621
	女性	368	268	2	638
	無回答	2	3	16	21

※本報告書において、「大学院」とは博士課程前期二年の課程、博士課程後期三年の課程、修士課程、博士課程、専門職学位課程に在籍する学生の回答を指す。このうち、博士課程前期二年の課程、修士課程、専門職学位課程に在籍する学生の回答を「修士課程」、博士課程後期三年の課程と博士課程に在籍する学生の回答を「博士課程」と表記している。



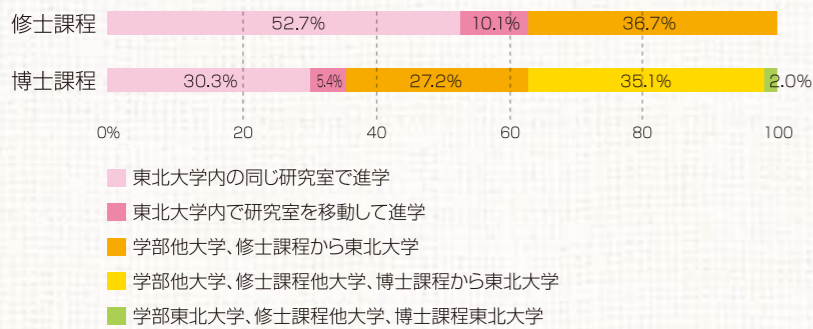
### 性別・平均年齢

- ◆回答者の性別は、学部生で男性71%、女性29%。修士課程の学生で男性73%、女性27%。博士課程の学生で男性70%、女性30%であった。
- ◆回答者の平均年齢は、学部生で20.9歳、修士課程で24.3歳、博士課程で30.9歳であった。

### 留学生

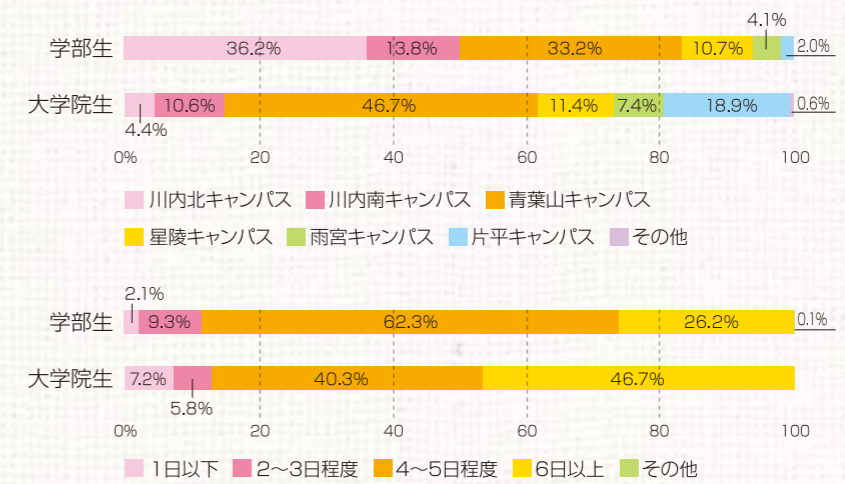
- ◆自身が留学生であると回答したのは215名で、私費留学生が60%、国費留学生が28%、国費以外の奨学金留学生が12%であった。

### 大学院生の経歴



◆大学院生の現在の所属に至るまでの経歴は、修士課程の学生では「東北大学内の同じ研究室で進学」が53%、「東北大学内で研究室を移動して進学」が10%と東北大学の学部出身者が約6割、「学部他大学、修士課程から東北大学」が37%であった。博士課程の学生では、「東北大学内の同じ研究室で進学」30%、「東北大学内で研究室を移動して進学」5%、「学部東北大学、修士課程他大学、博士課程東北大学」2%と、東北大学の学部出身者は合わせて約38%であり、「学部他大学、修士課程から東北大学」が27%、「学部他大学、修士課程他大学、博士課程から東北大学」が35%となっている。

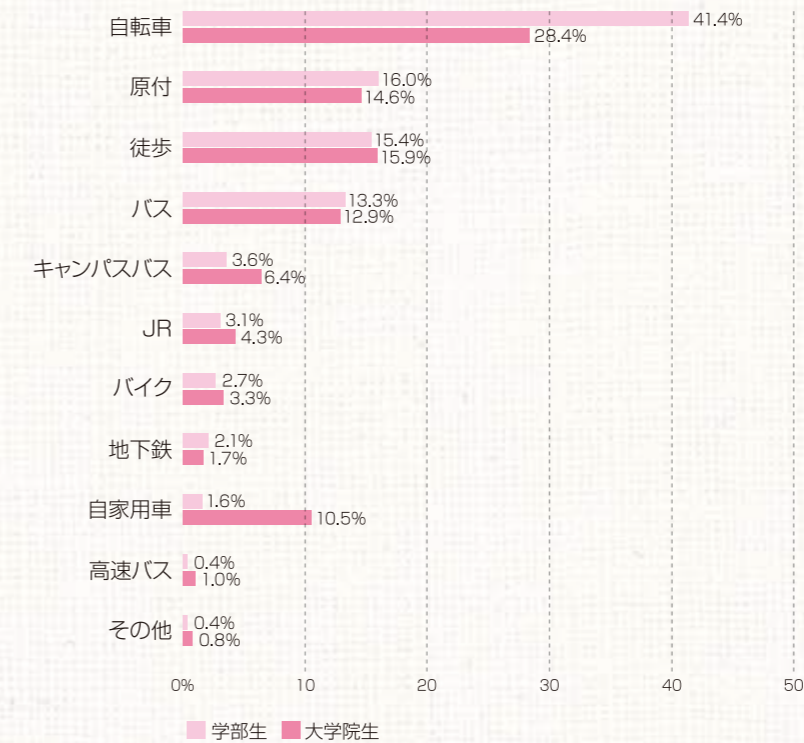
### キャンパス利用状況



◆東北大学の各キャンパスを訪れる学部生と大学院生の各々の延べ人数の割合は、川内北キャンパス36%、4%、川内南キャンパス14%、11%、青葉山キャンパス33%、47%、星陵キャンパス11%、11%、雨宮キャンパス4%、7%、片平キャンパス2%、19%であった。

◆平成25年4月から7月の授業期間中に、各キャンパスを修学・研究のために訪問した日数の平均は9割近くの学生が4日以上訪問し、学部生で4~5日程度、大学院生で6日以上が最も多かった。

### 通学のための交通手段

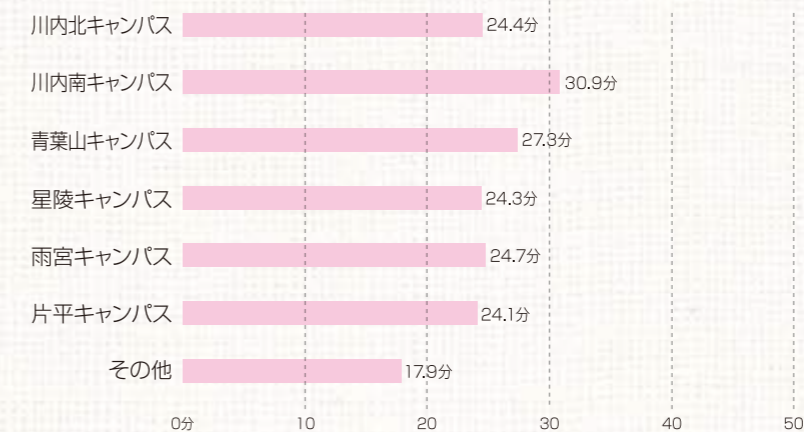


◆学部・大学院生ともに自転車での通学が最も多く、次いで原付自転車、徒歩、バスの順であった。ただし、大学院生は自家用車での通学も11%と比較的多かった。

◆「自転車」、「原付自転車」、「バイク」、「自動車」の利用者のうち、任意保険未加入者の学部生と大学院生の各々の割合は、「自転車」31%、45%、「原付自転車」11%、13%、「バイク」4%、9%、「自動車」6%、2%であった。



### 通学のための所要時間

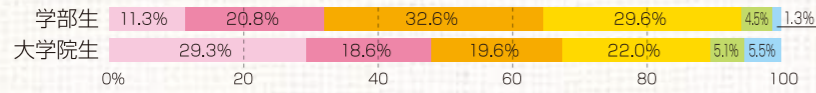


◆自宅から最も利用するキャンパスまでの片道の平均所要時間は、どのキャンパスでもおおそ30分以内であった。

## 学習等にかけた時間

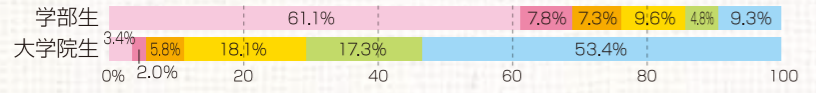
平成24年度4-7月の授業期間中の平均的な1日について、それぞれの学習・活動を行った時間を尋ねた。

### 《授業のための予習・復習・関連学習》



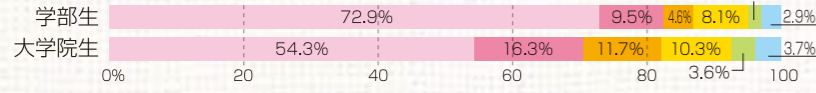
◆「授業のための予習・復習・関連学習」に、学部生では0分が11%、60分未満が53%、60分以上が35%。大学院生では、0分が29%、60分未満が38%、60分以上が33%。

### 《研究・論文執筆》



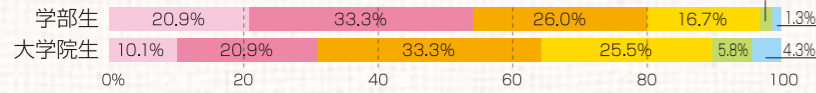
◆「研究・論文執筆」に、学部生では60分以上が24%（うち5時間以上が9%）、大学院生では60分以上が89%（うち5時間以上が53%）。

### 《職業資格取得・採用試験等のための学習》



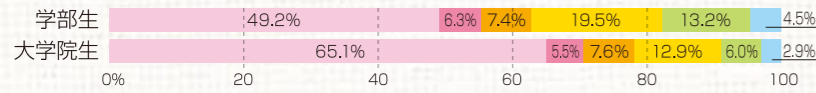
◆「資格取得・採用試験等のための学習」に、学部生では0分が73%、60分以上が13%、大学院生では0分が54%、60分以上が18%。

### 《上記以外で自身の知識や能力を高めるための学習・読書》



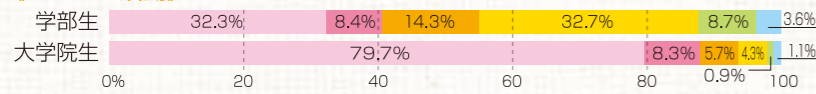
◆「自身の知識や能力を高めるための学習・読書」に、学部生では0分が21%、60分以上が20%、大学院生では0分が10%、60分以上が36%。

### 《アルバイト》



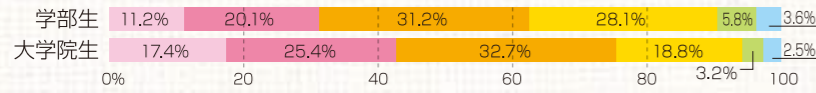
◆「アルバイト」に、学部生では0分が49%、60分未満が14%、60分以上が37%、大学院生では0分が65%、60分未満が13%、60分以上が22%。

### 《サークル活動》



◆「サークル活動」に、学部生では0分が32%、60分以上が45%、大学院生では0分が80%、60分以上が6%。

### 《友人と過ごす(上記以外)》

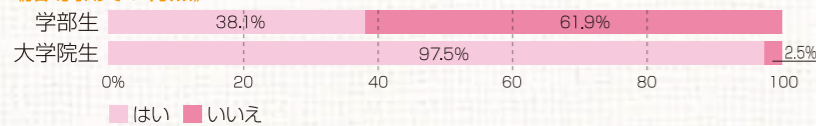


◆「友人と過ごす(上記以外)」に、学部生では0分が11%、60分未満が51%、60分以上が38%。大学院生では0分が17%、60分未満が58%、60分以上が25%。

0分 30分未満 30分～1時間未満 1時間～3時間未満 3時間～5時間未満 5時間以上

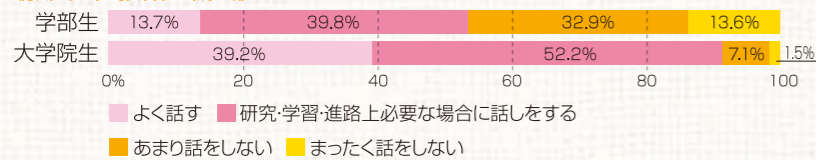
## 教職員との関わり

### 《指導教員の有無》



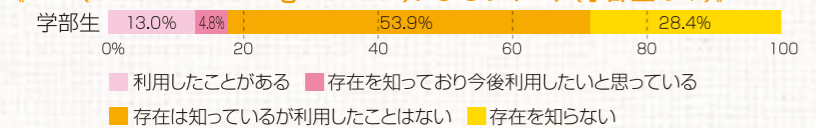
◆「指導教員(研究室配属)」について、学部生では38%、大学院生では98%が決定していると回答した。

### 《教員と直接話す機会》



◆「東北大学の教員と直接話すこと」について、学部生では54%、大学院生では91%が「よく話す」あるいは「必要な場合には話す」と回答した。

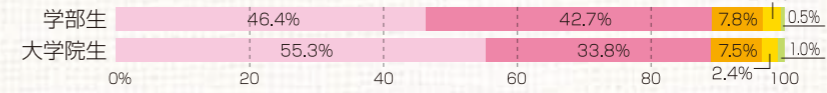
### 《SLA(Student Learning Adviser)によるサポート(学部生のみ)》



◆「SLA(Student Learning Adviser)によるサポート」については、学部生で13%が「利用したことがある」と回答した。一方、学部生の28%が「存在を知らない」と回答した。

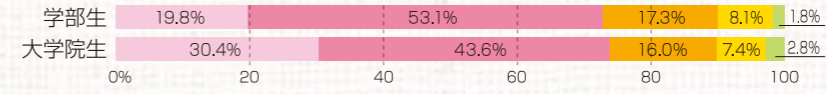
## 大学生生活の満足度

### 《東北大学に在学していること》



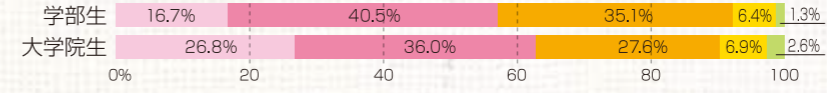
◆「東北大学に在学していること」について、学部生・大学院生ともに90%近くが「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《東北大学の授業や教育の内容》



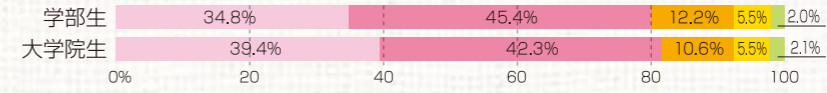
◆「東北大学の授業や教育内容」について、学部生・大学院生ともに73%前後が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《東北大学の学生支援体制》



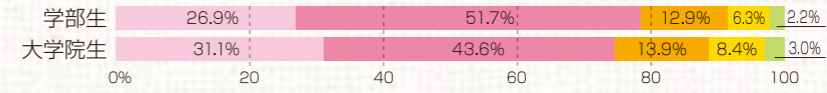
◆「東北大学の学生支援体制」について、学部生では57%、大学院生では63%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《自分の所属している学部・研究科》



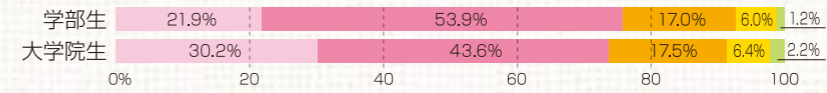
◆「自分の所属している学部・研究科」について、学部生・大学院生ともに81%前後が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《現在の学生生活》



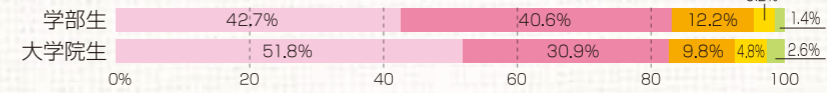
◆「現在の学生生活」について、学部生では79%、大学院生では75%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《キャンパス内で過ごす時間》



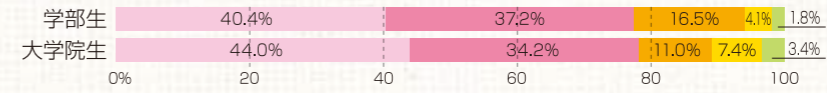
◆「キャンパス内で過ごす時間」について、学部生・大学院生ともに75%前後が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《指導教員との人間関係》



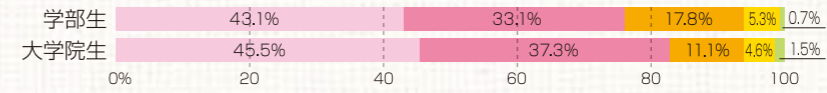
◆「指導教員との人間関係」について、学部生・大学院生ともに83%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《指導教員の教育指導》



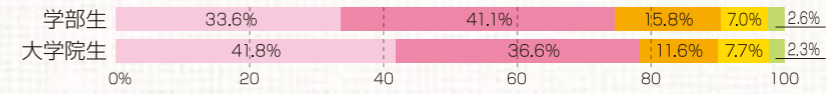
◆「指導教員の教育指導」について、学部生・大学院生ともに78%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《研究室の先輩・後輩の関係》



◆「研究室の先輩・後輩の関係」について、学部生では76%、大学院生では83%が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

### 《研究室の教育・研究環境》

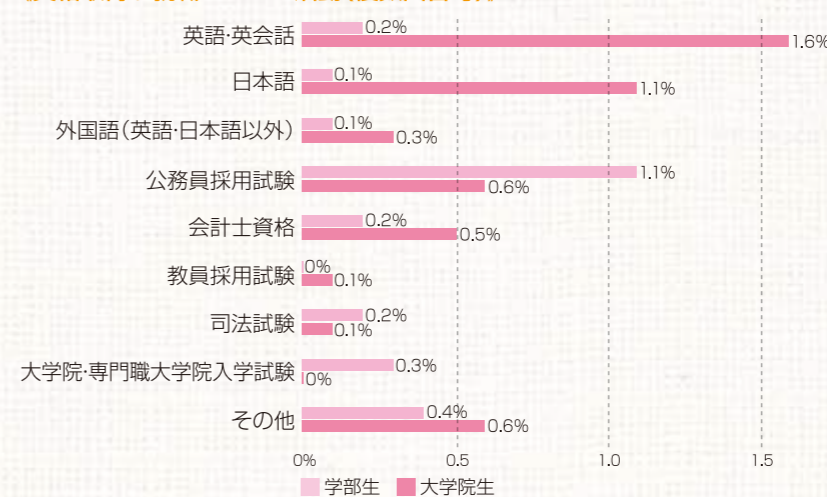


◆「研究室の教育・研究環境」について、学部生・大学院生ともに75%程度が「満足」あるいは「まあまあ満足」と回答した。

満足している まあまあ満足している どちらともいえない 少し不満である 大いに不満である

## 資格取得や就職のための活動

### 《資格取得や就職のための活動(複数回答可)》

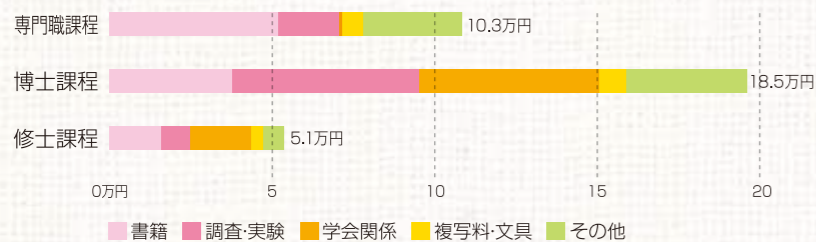


◆「資格取得や就職のための予備校・スクール・講座等への通学」について、学部生では2%、大学院生では5%が「通っている」と回答した。

◆「通学先」について、学部生では「公務員採用試験」が、大学院生では「英語・英会話」が多かった。

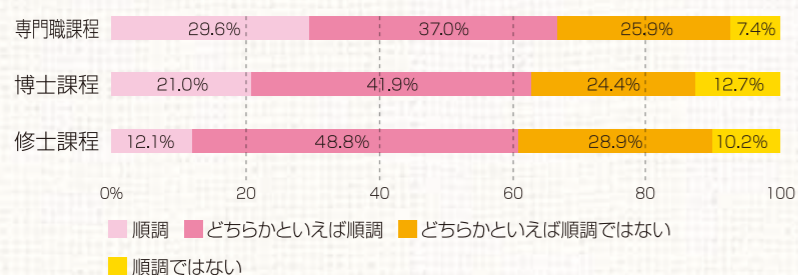


### 研究関連の支出



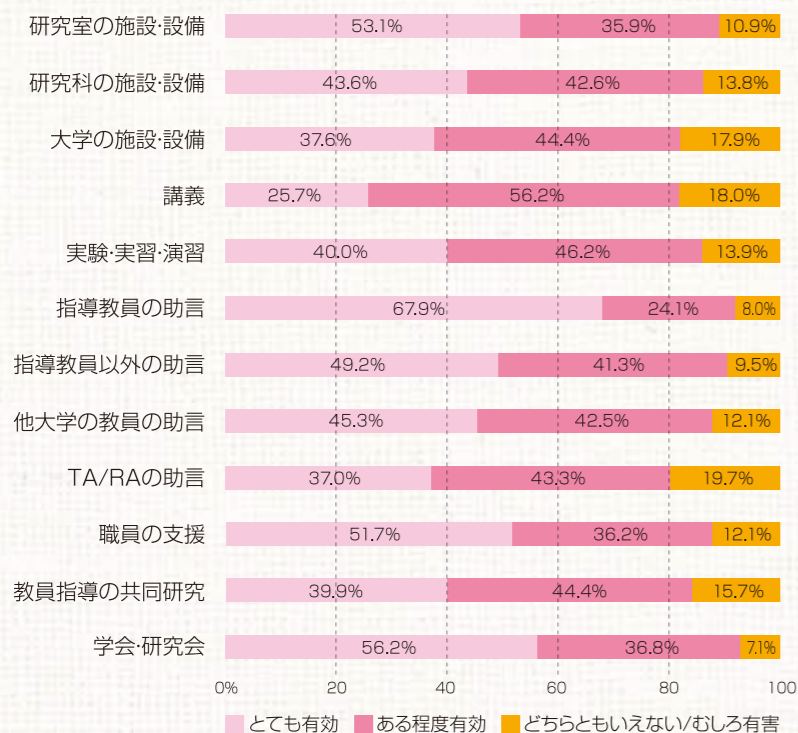
◆年間あたりの研究に関連する個人的支出の平均は、課程により大きく異なり、修士では5.1万円、博士では18.5万円、専門職では10.3万円である。内訳も課程により異なり、修士では主に書籍代と学会関係の費用、博士ではそれらに加え調査や実験の費用が大きな割合を占める。一方専門職では、書籍代が支出のほぼ半分を占めている。

### 研究の進捗状況



◆課程修了に向けての研究の進捗状況を問う設問に対し、「順調」または「どちらかといえば順調」と答えた学生は、修士課程で60.9%、博士課程で62.9%、専門職課程で66.6%であり、いずれの課程でも順調な者は過半数を越える。

### 研究の促進要因



◆課程による大きな違いは認められないため、全体の結果を示す。「とても有効」と回答した者が過半数を越えたのは「指導教員の助言」「学会や研究会」「研究室の施設・設備」「職員の支援」の項目であった。また、回答を文系・理系別に見ると、「施設・設備」に関する3項目および「学会・研究会」に関する項目では理系の大学院生が、「講義」「実験・実習・演習」など授業に関する2項目では文系の大学院生が「とても有効」と回答した比率が高かった。

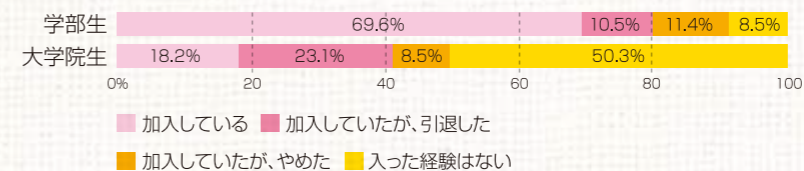


### 声 VOICE

- 学会や海外留学は大変有効。海外の研究所見学は良い経験になった。日本の研究所も見学する機会がほしい。
- 先生方だけでなく、研究室の先輩方や研究会などであった他校の学生などと話をすることも非常に有効でした。
- 大学院の講義履修のために割く時間が研究の妨げとなった。

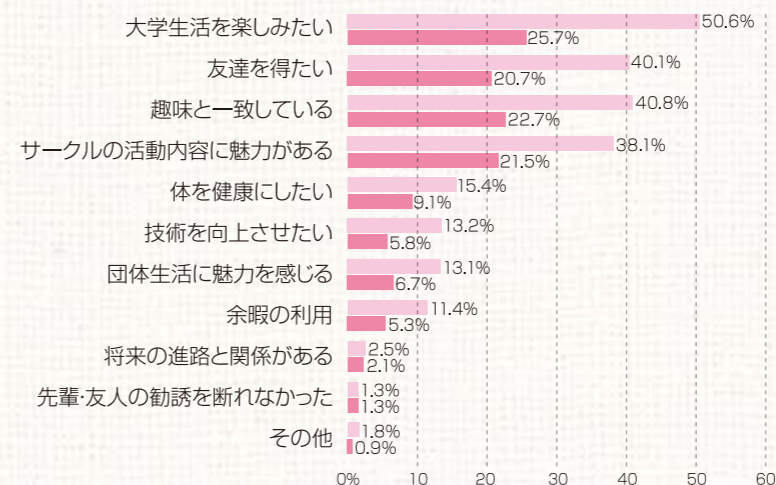
## E サークル・ボランティア活動

### サークル加入状況

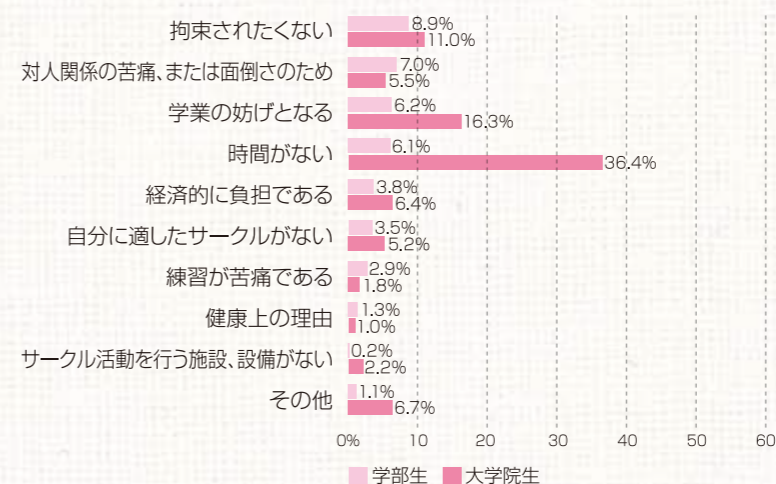


◆学部生では、9割近くがサークルに加入した経験があり、現在も加入中の学生は70%であった。一方、大学院生は過半数が加入の経験が無く、現在加入している学生は18%であった。

### サークル加入の動機

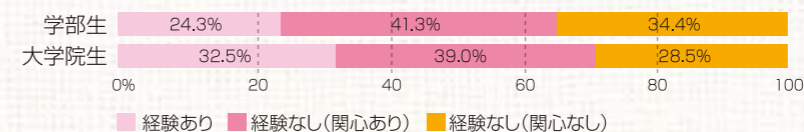


◆加入した動機は、学部生・大学院生と共に、「大学生生活を楽しみたい」、「友達を得たい」、「趣味と一致している」、「サークル活動内容に魅力がある」と続く。その他具体的な記述には、「ストレス発散」、「縦の人間関係を築くため」等があった。

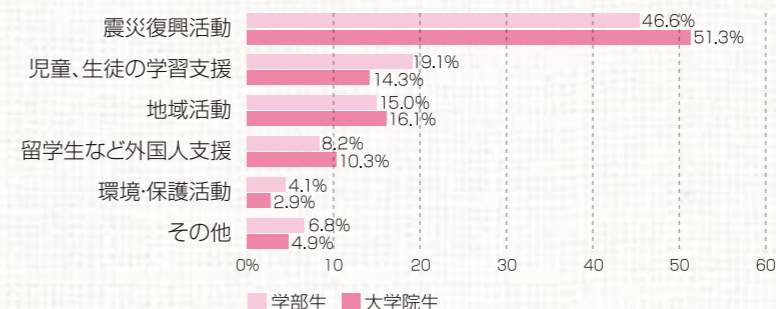


◆サークルに加入していない、あるいはやめた理由では、学部生は「拘束されたくない」、「対人関係の苦痛・面倒さ」と続いた。一方、大学院生は「時間がない」、「学業の妨げになる」が理由として多く挙げられた。またその他の具体的記述には、大学院生から「他大学から大学院に進学したので、サークル活動に関する情報がない」が多く挙げられた。

### ボランティア活動



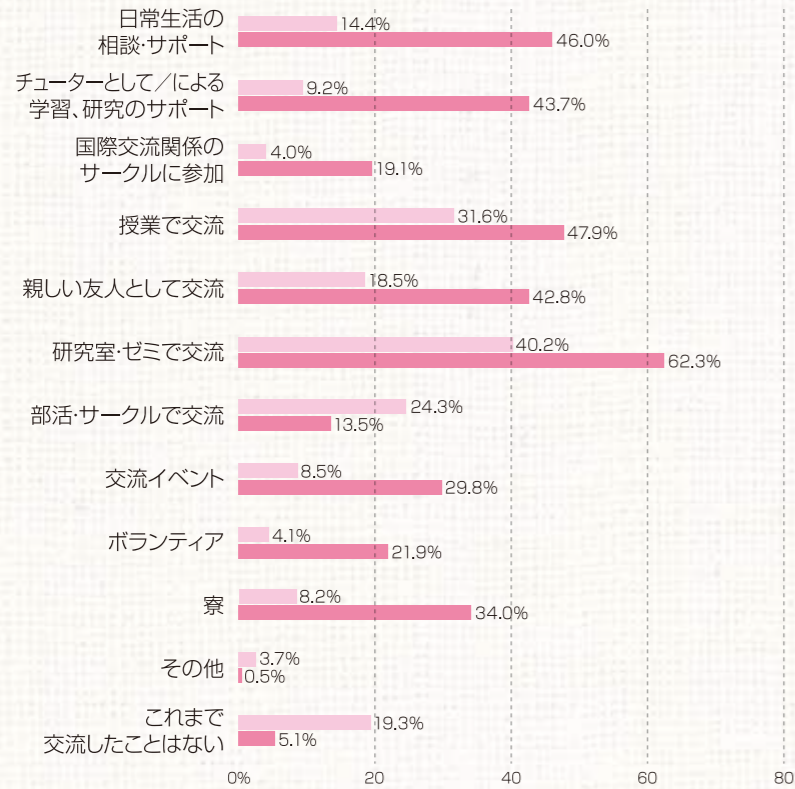
◆学部生の24%、大学院生の33%がボランティア活動を経験している。また学部生および大学院生のおよそ4割は、まだ経験は無いがボランティア活動に関心があると回答した。



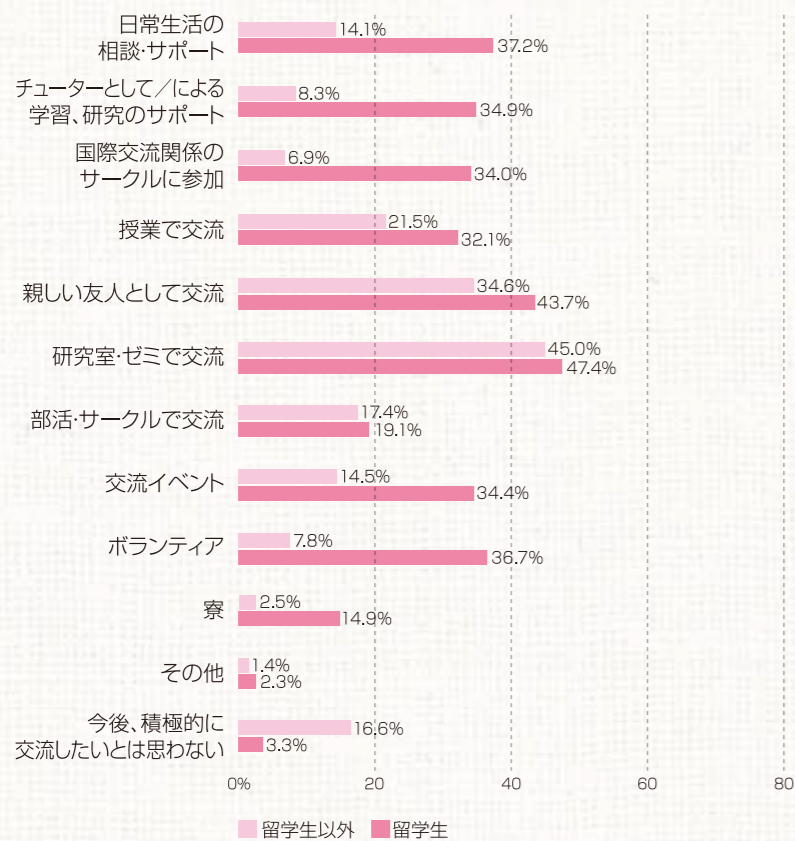
◆活動内容は、およそ5割が「震災復興活動」、続いて「児童、生徒の学習支援」、「地域活動」、「留学生などの外国人支援」であった。またその他の具体的記述には、「障害者支援活動」、「福祉活動」、「スポーツ支援活動」等があった。

国際交流

《経験したことがある交流について》



《今後経験/継続したい交流》



グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)

◆東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGLプログラム)は、産学官の様々な分野でグローバルに活躍する人材を育成するために、平成25年度から始まった学部学生対象の登録制プログラムである。TGLプログラムについて知っていたのは全体の42.6%であった。そのうち登録している学生は全体の6.6%であった。

◆学内での国際交流について、留学生は「研究室・ゼミでの交流」が62.3%が最も多く、「授業で交流」47.9%、「日常生活の相談・サポート」46%「チューターによる研究のサポート」43.7%「親しい友人として交流」42.8%の順となった。

◆一方で留学生以外の学生では、「研究室・ゼミで交流」40.2%が最も多く、続いて「授業で交流」31.6%、「親しい友人として交流」18.5%、「日常生活の相談・サポート」14.4%であった。

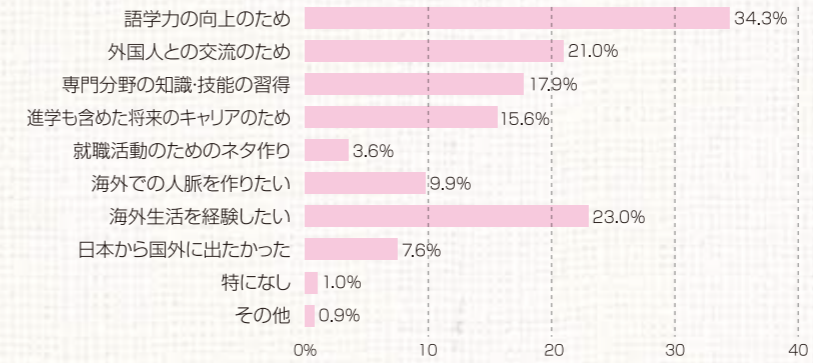
◆これまでに学内での交流をしたことのない学生は留学生は5.1%、留学生以外は19.3%であった。

◆今後経験、継続したい交流について、留学生の中で最も多かったのが「研究室・ゼミでの交流」47.4%、次に「親しい友人として交流」43.7%「日常生活の相談・サポート」37.2%の順であった。「今後積極的に交流したいと思わない」と3.3%の学生が回答した。

◆一方で留学生以外の学生では、「研究室・ゼミでの交流」45%、次に「親しい友人として交流」34.6%「授業で交流」21.5%の順であった。「今後積極的に交流したいと思わない」と16.6%の学生が回答した。

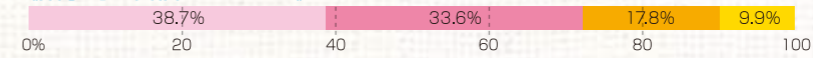


日本人学生の海外留学



【留学生以外】

《語学力に自信がないから》



《留学費用がかかるから》



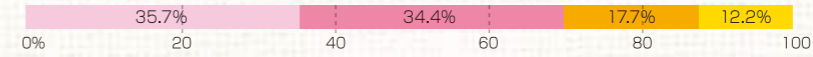
《卒業時期が遅れるから》



《就職活動に影響するから》



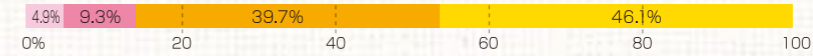
《海外での生活に不安を感じるから》



《情報収集が難しいから》



《家族が反対するから》



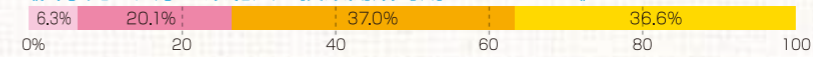
《国内の人間関係に影響するから》



《サークル活動やアルバイトに影響するから》



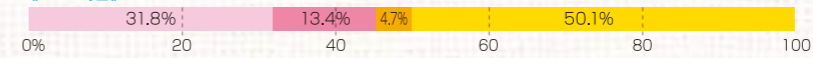
《留学先の大学と東北大学の授業開始時期がずれること》



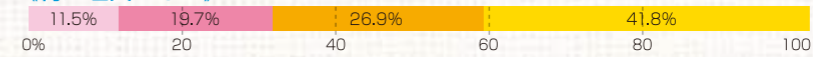
《日本の快適さ・安全性》



《その他》



《特に理由はない》



■ とても当てはまる ■ 当てはまる ■ あまり当てはまらない ■ まったく当てはまらない

◆東北大学入学後、大学内外の留学制度を利用して留学したことがある学生は全体の9.7%であった。

◆希望する留学については「1ヶ月程度の語学留学」を希望する学生が24.3%と最も多く、ついで「6か月程度の海外留学」13.1%、「12か月程度の海外留学」が8.3%「12か月以上の海外留学」が7.2%であった。一方、「留学したいとは思わない」と答えた学生が44.1%であった。

◆海外留学をしたい理由としては、「語学力の向上のため」が34.3%と最も多く、「海外生活を体験したい」23.0%、「外国人との交流のため」21%と続く。「専門分野の知識・技能の習得」17.9%、「進学も含めた将来のキャリアのため」15.6%と続いた。

◆留学をためらう理由について「よく当てはまる」「当てはまる」と回答した学生が多かったのは「留学費用がかかるから」「日本の快適さ・安全性」が共に80.4%。次に「語学力に自信がないから」72.3%、「卒業時期が遅れるから」71.1%、「海外での生活に不安を感じるから」70.1%の順となった。

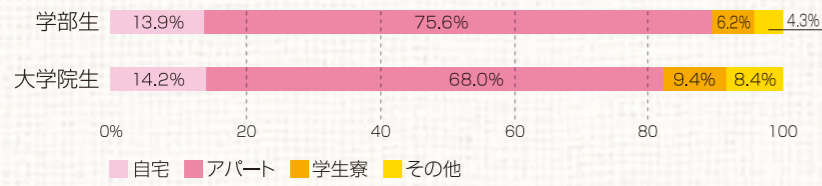


外国人留学生の留学前の状況

◆留学前に東北大学や東北大学の留学プログラムを知った方法は「各学部・研究科・研究所のWEBサイト」が最も多く60.9%であった。続いて「母国の高校や大学の先生、指導教員、国際交流オフィスの助言指導」27.4%、「東北大学に留学経験のある先輩や現在留学中の学生からの助言」20.9%「母国で開かれた留学フェア、日本留学説明会」が14%という順になった。

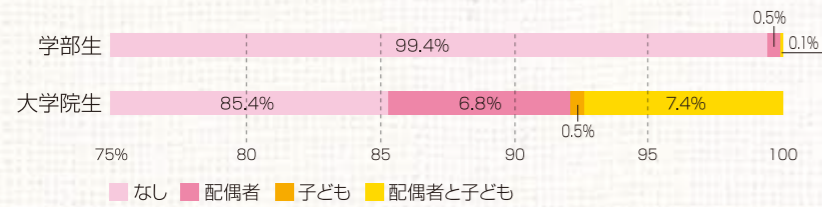
◆留学のために、事前にもっと詳しく知りたかった情報は「奨学金情報」が53.5%と最も多く、続いて「日本や仙台での生活に関する情報」「寮やアパートなど住居に関する情報」が共に50.2%であった。続いて「入試情報」45.6%、「東北大学の研究者情報」「東北大学の教育・研究水準について」が共に40.5%であった。

### 住居の種別



◆現在の住居の種別は、学部生では「自宅」が14%、「アパート、学生ハイツ、マンション」が76%、「(東北大学)学生寮、ユニバーシティハウス」が6%、大学院生では「自宅」が14%、「アパート」が68%、「学生寮」が9%である。

### 配偶者・子供の有無

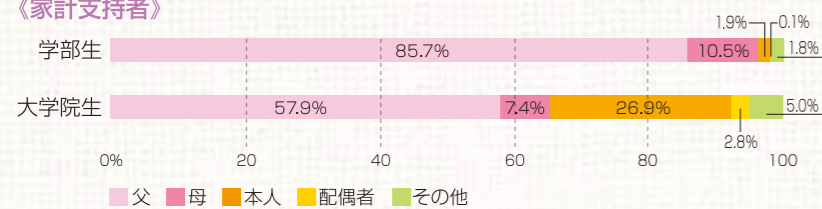


◆回答者のほとんどに生計を共にしている配偶者や子どもはいない。

◆配偶者がいるのは、学部生の0.6%、大学院生の14.2%である。

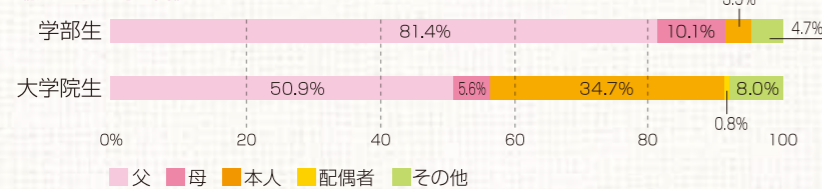
### 経済的支援者

#### 《家計支持者》



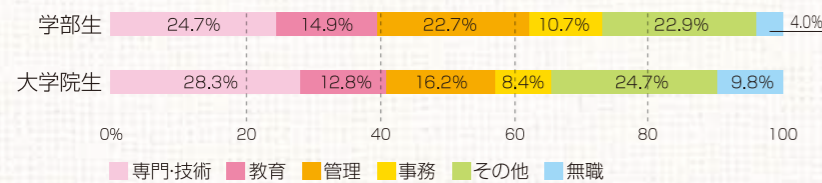
◆主たる家計支持者が「父母」である者は、学部生では96%、大学院生では65%である。「本人」と回答したのは学部生では2%、大学院生では27%である。

#### 《授業料負担者》



◆主たる授業料負担者は、家計支持者の結果と同様の傾向にあるが、「本人」の比率が増加する。学部生では4%、大学院生では35%が自ら授業料を負担している。

### 家計支持者の職業

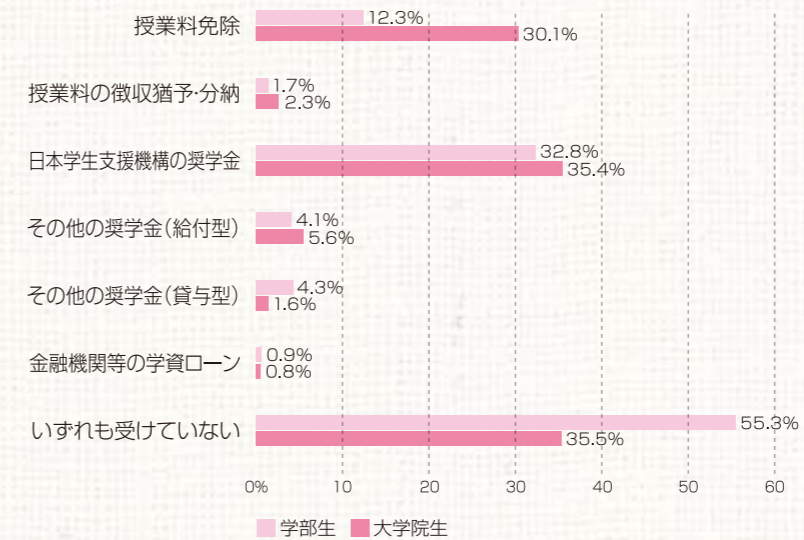


◆主たる家計支持者の職業は、学部生では「専門的・技術的職業」が25%、「教育的職業」が15%、「管理的職業」が23%、「一般事務」が11%、「無職」が4%、大学院生では「専門的」が28%、「教育的」が13%、「管理的」が16%、「一般事務」が8%、「無職」が10%である。



- 給付型や返還義務のない奨学金を充実させてほしい／貸与型は借金が増えるだけだ。
- 成績優秀ならば授業料を免除してもらいたい／学業面の良し悪しを反映した制度がほしい。
- 情報をもっと学生の目につきやすいようにしてほしい／見落としがないよう大々的に周知してほしい。
- ユニバーシティハウスを増やしてほしい／入寮できる学年を限定しないでほしい。
- 日本の大学として女子を初めて受け入れたのに女子寮が少ない。／女子寮を増やしてほしい。

### 受けている経済的支援(複数回答)

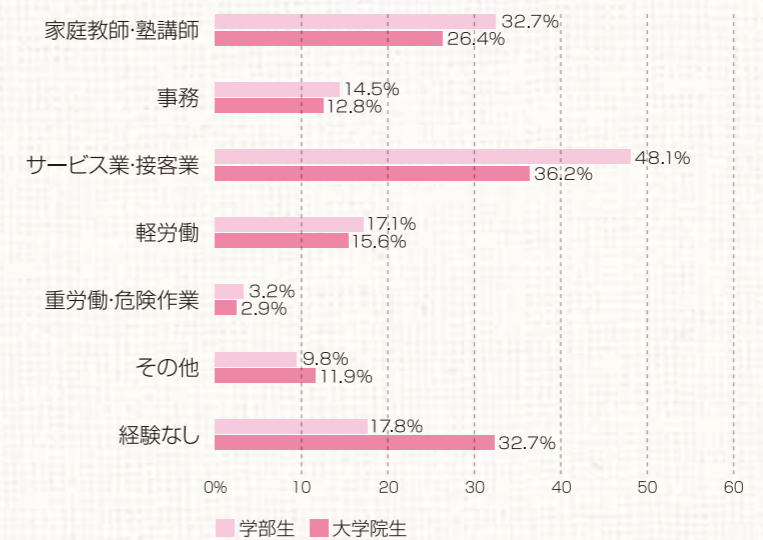


◆学部生の45%、大学院生の65%が何らかの経済的支援を受けている。

◆奨学金の内容は、日本学生支援機構の奨学金が最も多く、学部生の33%、大学院生の35%が利用している。

◆授業料免除を受けているのは、学部生の12%、大学院生の30%である。(複数回答)

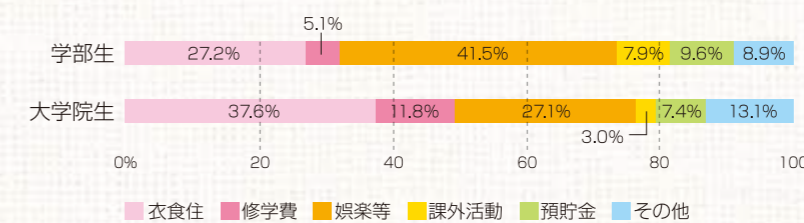
### 入学後経験したアルバイト(複数回答)



◆学部生の82%、大学院生の67%が東北大学入学後に、何らかのアルバイトを経験している。

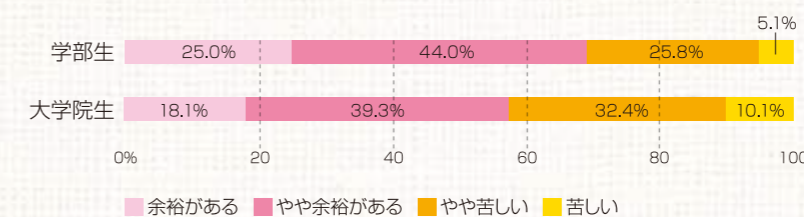
◆アルバイトの種類は、学部生では「サービス業・接客業」48%が、「家庭教師・塾講師」が33%、「軽労働」が17%、「事務」が15%、大学院生では「サービス業」が36%、「家庭教師・塾講師」が26%、「軽労働」が16%、「事務」が13%となる。(複数回答)

### アルバイト収入の用途



◆アルバイト収入の使用目的は、学部生では娯楽、レジャー、旅行の「娯楽等」が42%、「衣食住」の費用が27%、「預貯金」が10%、「課外活動費」が8%、大学院生では「衣食住」が38%、「娯楽等」が27%、授業料、修学費、資格取得等の費用に当てる「修学」が12%である。

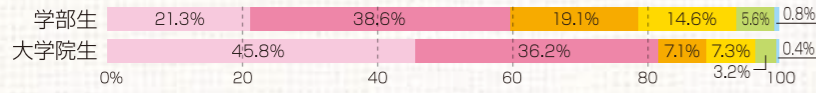
### 経済的ゆとり感



◆学部生では5%が「苦しい」、26%が「やや苦しい」と回答し、大学院生では10%が「苦しい」、32%が「やや苦しい」と回答した。

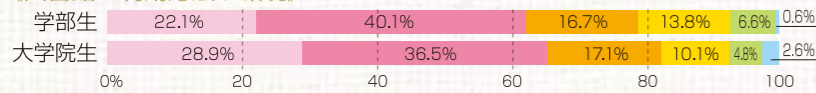
キャンパス・設備・周辺環境の満足度

《インターネット環境》



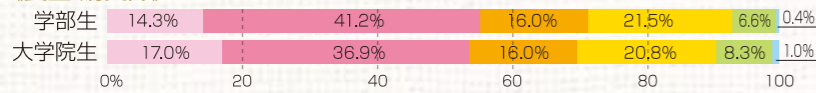
◆「インターネット環境」については、学部生の59%、大学院生の82%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《図書館の利用方法や環境》



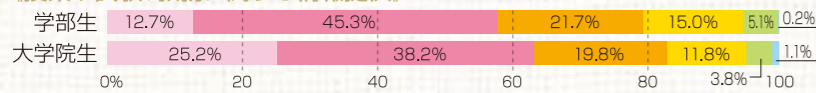
◆「図書館の利用方法や環境」については、学部生の62%、大学院生の65%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《食堂・購買部》



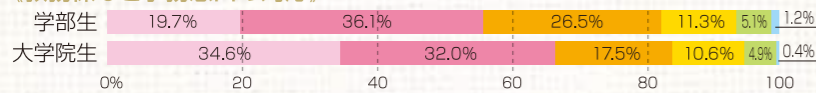
◆「食堂・購買部」については、学部生の55%、大学院生の53%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《授業や試験、教務に関する情報提供》



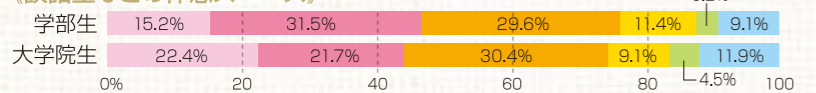
◆「授業や試験、教務に関する情報提供」については、学部生の58%、大学院生の63%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《教務係など事務窓口の対応》



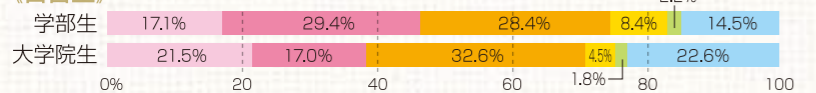
◆「教務係など事務窓口の対応」については、学部生の55%、大学院生の66%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《談話室などの休憩スペース》



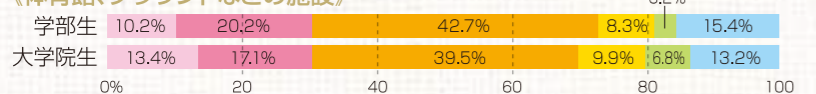
◆「談話室などの休憩スペース」については、学部生の46%、大学院生の44%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《自習室》



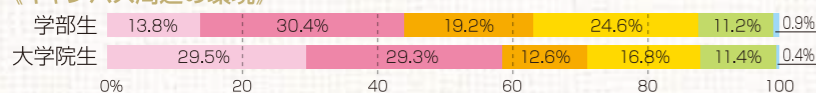
◆「自習室」については、学部生の46%、大学院生の38%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《体育館、グラウンドなどの施設》



◆「体育館、グラウンドなどの施設」については、学部生、大学院生ともに30%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

《キャンパス周辺の環境》



◆「キャンパス周辺の環境」については、学部生の44%、大学院生の58%の人が、「満足している」あるいは「まあまあ満足している」と回答。

■ 満足している ■ まあまあ満足している ■ どちらともいえない ■ 少し不満である ■ 大いに不満である ■ 存在しない

大学における「居場所」感

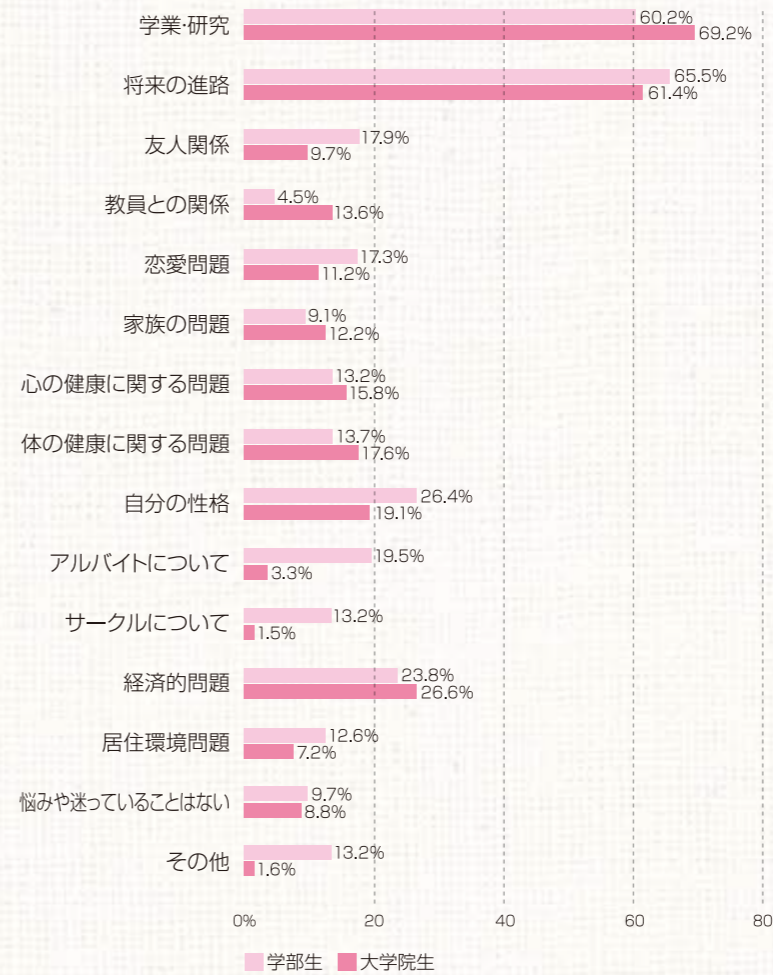
◆現在、大学に「居場所」があると感じられると回答したのは、学部生の86%、大学院生の84%であった。

学生相談所の利用経験、認知度

◆学生相談所を「利用したことがある」と回答した学部生は9.5%、大学院生は10%、「利用したいと思ったことがある」と回答した学部生は10%、大学院生は11%であった。

◆利用希望の有無に関わらず、学生相談所の「存在を知っている」のは、学部生の84%、大学院生の80%であった。

現在の悩みや迷い(複数回答)



◆主な悩みとして、学部生では、「将来の進路」(65%)、「学業・研究」(60%)、「自分の性格」(26%)、「経済的問題」(23%)、「アルバイトについて」(19%)、「友人関係」(17%)、「恋愛問題」(17%)、「体の健康に関する問題」(13%)、「心の健康に関する問題」(13%)、「サークルについて」(13%)、「居住環境問題」(12%)が挙げられた。大学院生では、「学業・研究」(69%)、「将来の進路」(61%)、「経済的問題」(26%)、「自分の性格」(19%)、「体の健康に関する問題」(17%)、「心の健康に関する問題」(15%)、「教員との関係」(13%)、「家族の問題」(12%)、「恋愛問題」(11%)が挙げられた。



悩みの相談相手(複数回答)

◆主な悩みの相談相手として、学部生では、「日本人の知人・友人」(70%)、「母親」(55%)、「父親」(31%)、「兄弟・姉妹」(16%)、「配偶者・恋人」(16%)が挙げられた。大学院生では、「日本人の知人・友人」(58%)、「母親」(48%)、「配偶者・恋人」(31%)、「父親」(29%)、「東北大学の教員」(22%)が挙げられた。

窓口事務職員に期待すること(複数回答)

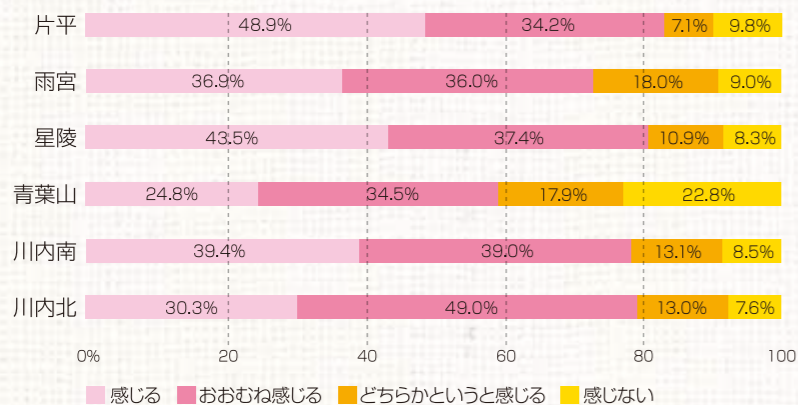
◆主なものとしては、「明るく親切に対応してほしい」(学部生の42%、大学院生の41%)、「わかりやすく説明してほしい」(学部生の38%、大学院生の37%)、「履修に関する重要な情報は、掲示をネット上(ホームページ、メール)でも行って欲しい」(学部生の39%、大学院生の30%)が挙げられた。

**声 VOICE**

- たらい回しにしないでほしい。
- 各種手続きについて分からないことも多いので、その都度丁寧な対応をお願いしたいです。
- 奨学金等に関して、暖かな対応をしていただき、ありがとうございました。

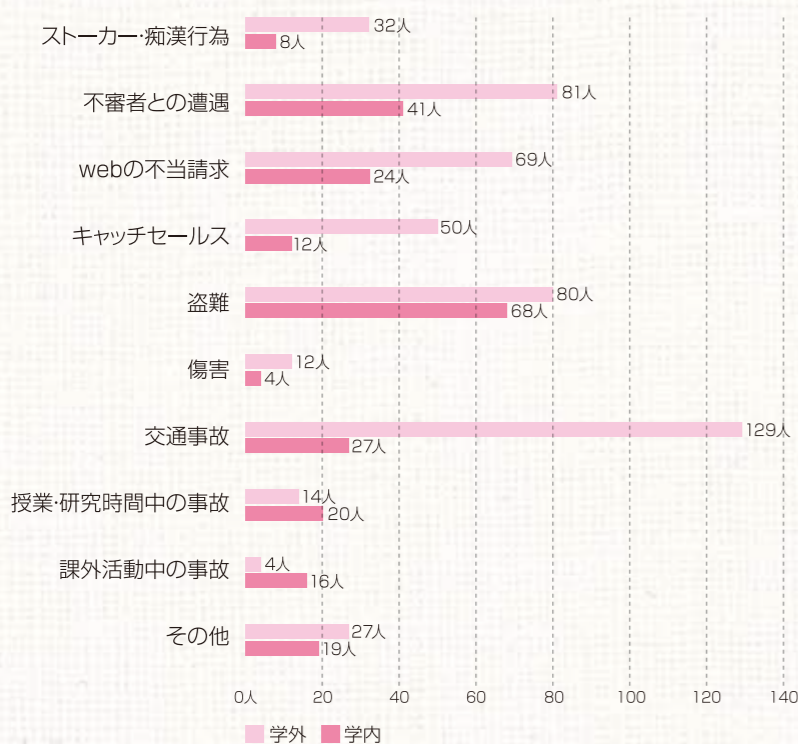


キャンパス内の安全性



◆主に利用するキャンパス別に学内の安全性の意識を尋ねた。多くのキャンパスで、8割前後の学生が自分のキャンパスを「安全」または「おおむね安全」と感じているが、青葉山キャンパスでは6割にとどまり、安全を「感じない」という者も2割を越えている。青葉山通学者の自由記述には延べ358件の不安が記されたが、半数強(187件)がクマの出没に関するものであった。そのほかの不安としては、交通量の多さ・交通マナーの悪さ(54件)、歩道の未整備(36件)、不審者の出現(33件)、路面凍結(24件)などが挙げられた。

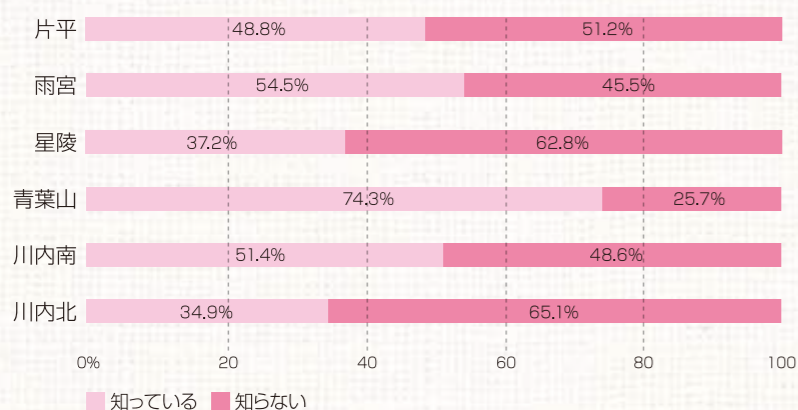
事件・事故の被害体験



◆過去1年間に、学内で何らかの事件・事故を体験した者は、9.4%、学外での体験者は18.6%である。内訳としては、学内では「盗難」「不審者との遭遇」が多く、学外では「交通事故」「不審者との遭遇」が多かった。また別の設問でカルト系団体からの被勧誘体験を尋ねているが、勧誘されたことがある者は13.6%となっている。勧誘時期として多いのは4月(23.8%)、5月(17.2%)、10月(14.1%)である。勧誘場所は、学内が主であり(57.6%)、自宅(30.2%)や街中(10.9%)が続いている。



避難場所の認知



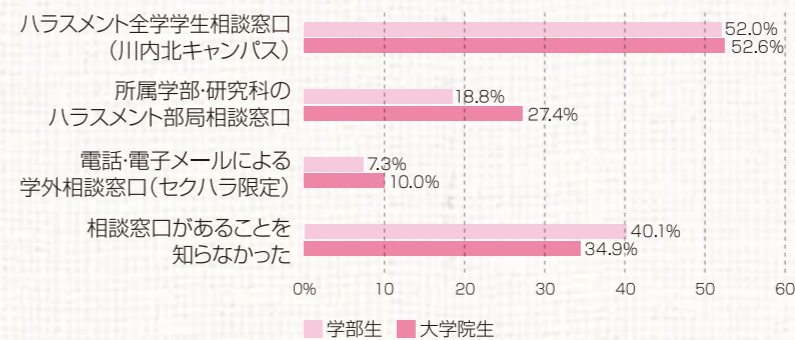
◆主に利用するキャンパス別にそのキャンパスの避難場所を知っているか否かを尋ねた。キャンパスにより大きな違いがみられ、青葉山通学者は7割を越えるものが知っていたが、川内北および星陵では、6割以上が知らないという結果となった。

J ハラスメント

本学の教育研究ハラスメント問題への取り組み

◆「知っていた」のは学部生の43%、大学院生の59%であった。

ハラスメント相談窓口の周知度



◆全学学生相談窓口の周知度は、学部生、大学院生ともに52%であり、前回調査に比べやや低下状態にあった。部局(学部・研究科)の相談窓口の周知度は、学部生で18%、大学院生で27%であった。「ハラスメント相談窓口を知らなかった」のは、学部生で40%、大学院生で、34%であった。

セクシャル・ハラスメント被害の経験

◆学部生では、男子学生の0.1%、女子学生の2.1%が、大学院生では、男子学生の1.0%、女子学生の6.5%が、学内関係者からセクシャル・ハラスメントを受けたことが「ある」と回答。

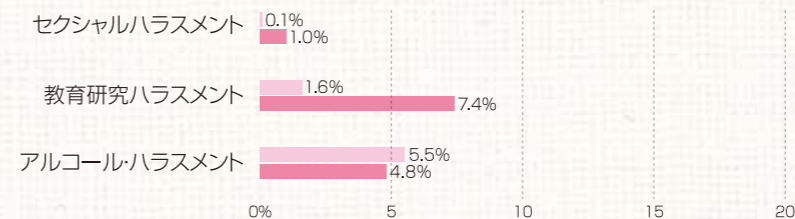
教育研究ハラスメント被害の経験

◆学部生では、男子学生の1.6%、女子学生の2.1%が、大学院生では、男子学生の7.4%、女子学生の9.0%が、学内関係者から教育研究ハラスメントを受けたことが「ある」と回答。

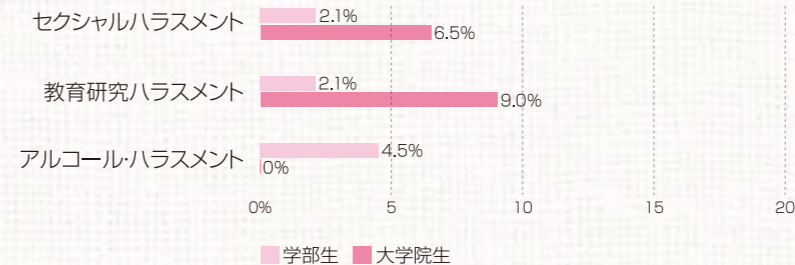
今年度におけるアルコール・ハラスメント被害の経験

◆学部生では、男子学生の5.5%、女子学生の4.5%が、大学院生では、男子学生の4.8%が(女子学生は0%)、コンパ等で飲酒の強要をされたことが「ある」と回答。

《男性》



《女性》



- まだまだ周知が不十分だと思う。
- セクシュアルハラスメントの範囲を、男性から女性のみだけでなく、多様な関係性を視野に入れること。
- 学科全体で全研究室の様子をしっかりと把握すべき。風通しをよく。
- 窓口を实际利用して助かった知人がいるので、今後も活動してほしい。
- 大学院生へのハラスメント教育を充実させてほしい。

